結果の概要

1　推計人口

前年より人口は減少，世帯数は増加

令和元（2019）年 10 月 1 日現在の人口は 146 万 6,264 人，世帯数は 72 万 6,665 世帯で，前年と比べて，人口は 2,716 人（0.2%）の減少，世帯数は 5,620 世帯（0.8 %）の増加となっています。人口を男女別にみますと，男性は 69 万 4,238 人，女性は 77 万 2,026 人で，前年と比べて，男性は 1,591 人（0.2%），女性 1,125 人（0.1%）の減少となりました。

図１　月次推移（各月１日現在）

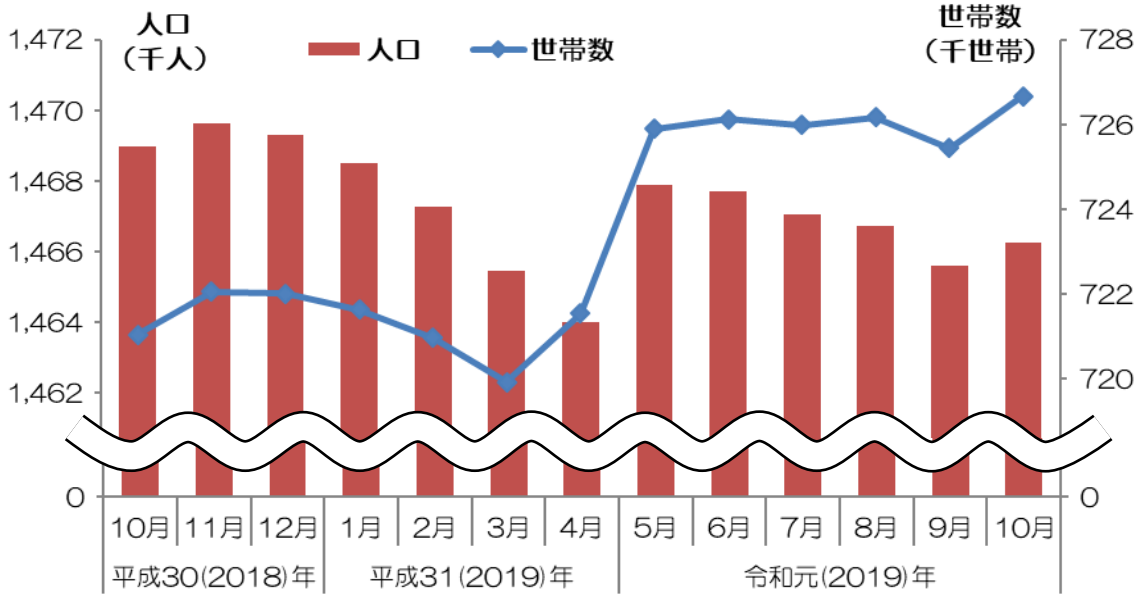
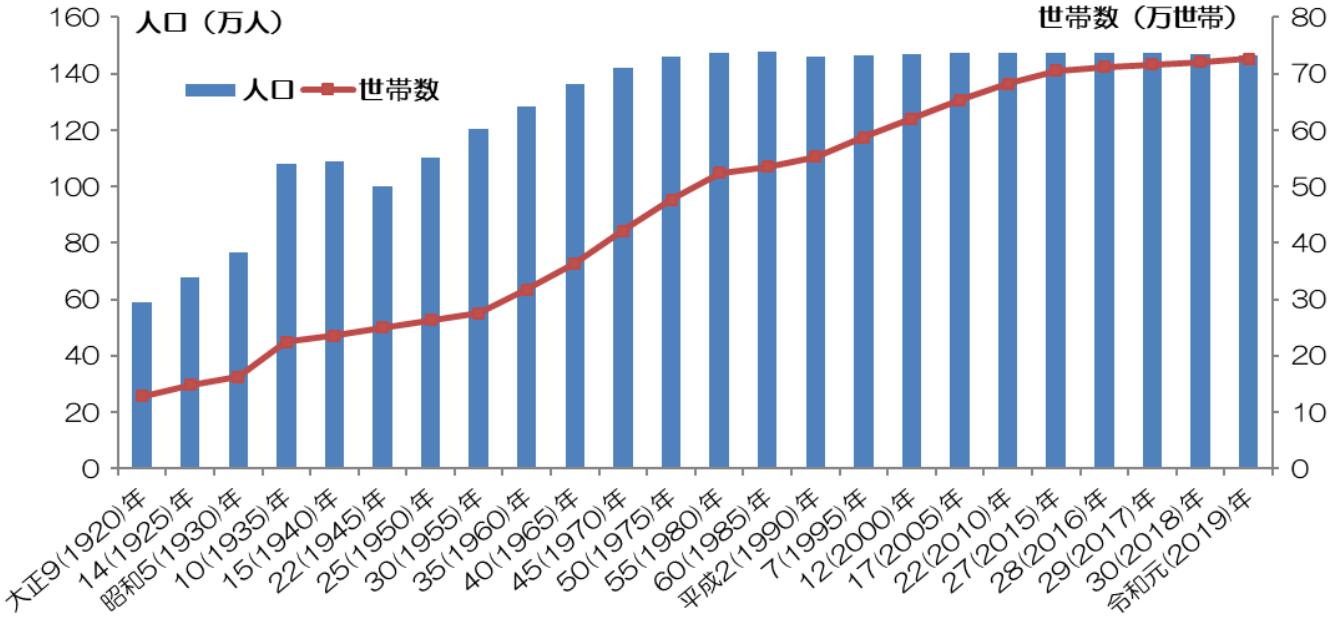


図２　年次推移（各年 10 月 1 日現在）

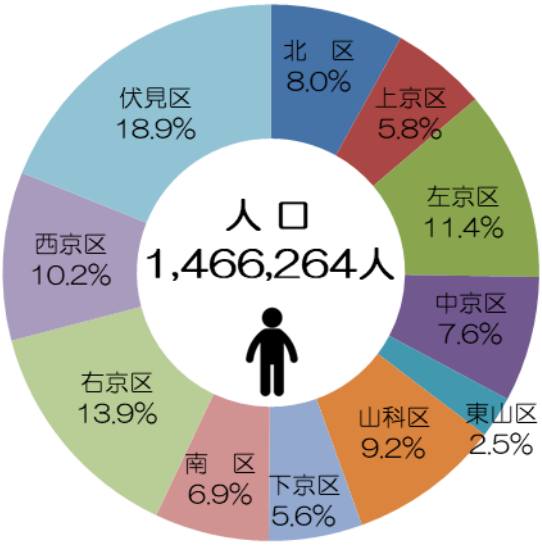


（注）平成 27（2015）年までは国勢調査結果，平成 28（2016）年以降は推計人口である。

令和元（2019）年 10 月 1 日現在の人口を行政区別にみますと，最も多いのは伏見区の 27 万 7,421 人（全体に占める割合は 18.9%）で，次いで右京区の 20 万 3,670 人（同 13.9%），左京区の 16 万 7,822 人（同 11.4%）と続いています。

一方，人口が最も少ないのは東山区の 3 万 6,957 人（同 2.5%）で，次いで下京区の 8 万 2,680 人（同 5.6%），上京区の 8 万 4,539 人（同 5.8%）の順となっています。

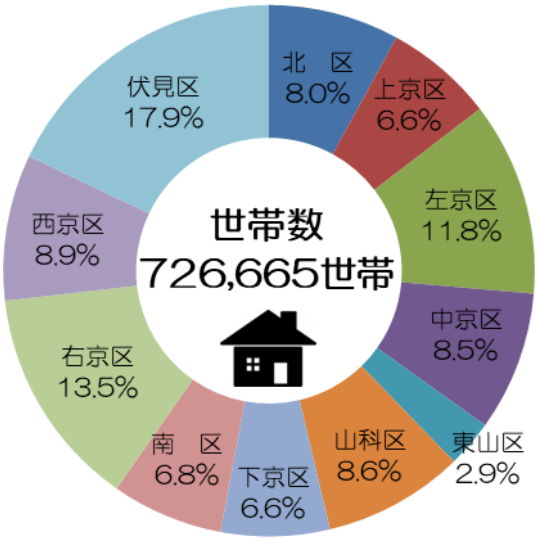
図３　行政区別人口の割合（令和元（2019）年 10 月 1 日現在）



令和元（2019）年 10 月 1 日現在の世帯数を行政区別にみますと，最も多いのは伏見区の 13 万 160 世帯（全体に占める割合は 17.9%）で，次いで右京区の 9 万 7,900 世帯（同 13.5%），左京区の 8 万 5,720 世帯（同 11.8%）と続いています。

一方，世帯数が最も少ないのは東山区の 2 万 827 世帯（同 2.9%）で，次いで上京区の 4 万 8,042 世帯（同 6.6%），下京区の 4 万 8,044 世帯（同 6.6%）の順となっています。

図４　行政区別世帯の割合（令和元（2019）年 10 月 1 日現在）



２　人口動態

（１）　自然動態

出生数が１万人を下回り，マイナス幅が拡大

この１年間（平成 30（2018）年 10 月から令和元（2019）年９月まで）の自然動態をみますと，出生数は 9,900 人で１万人を下回り，前年と比べて 362 人（3.5%）の減少，死亡数は１万 5,036 人で，前年と比べて 77 人（0.5%）の増加となりました。

この結果，自然動態による増減数は 5,136 人の減少となり，自然動態のマイナス幅が拡大しました。

図５　自然動態月次推移

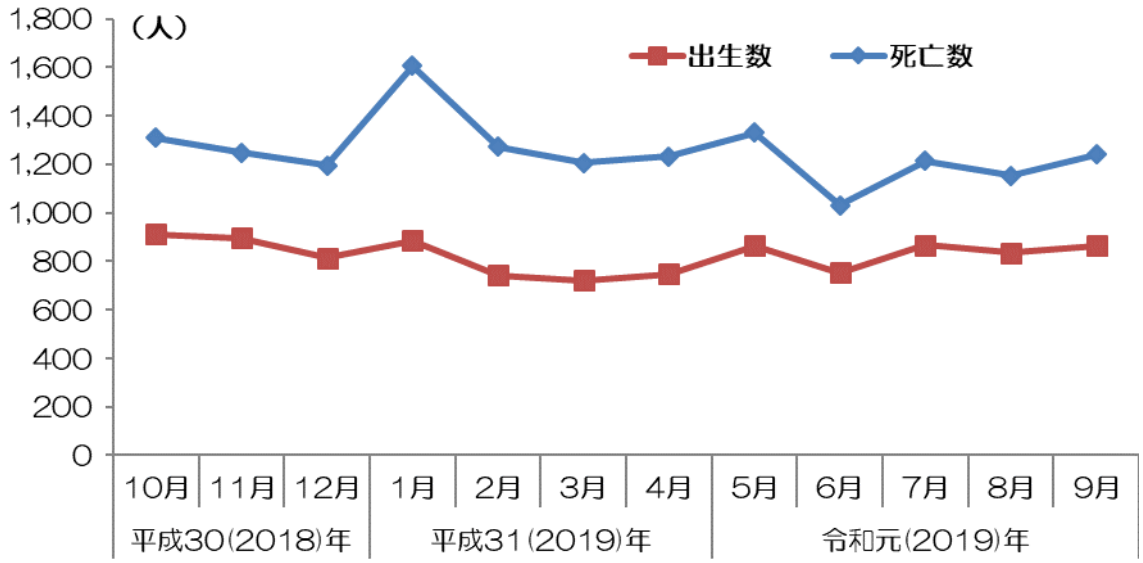
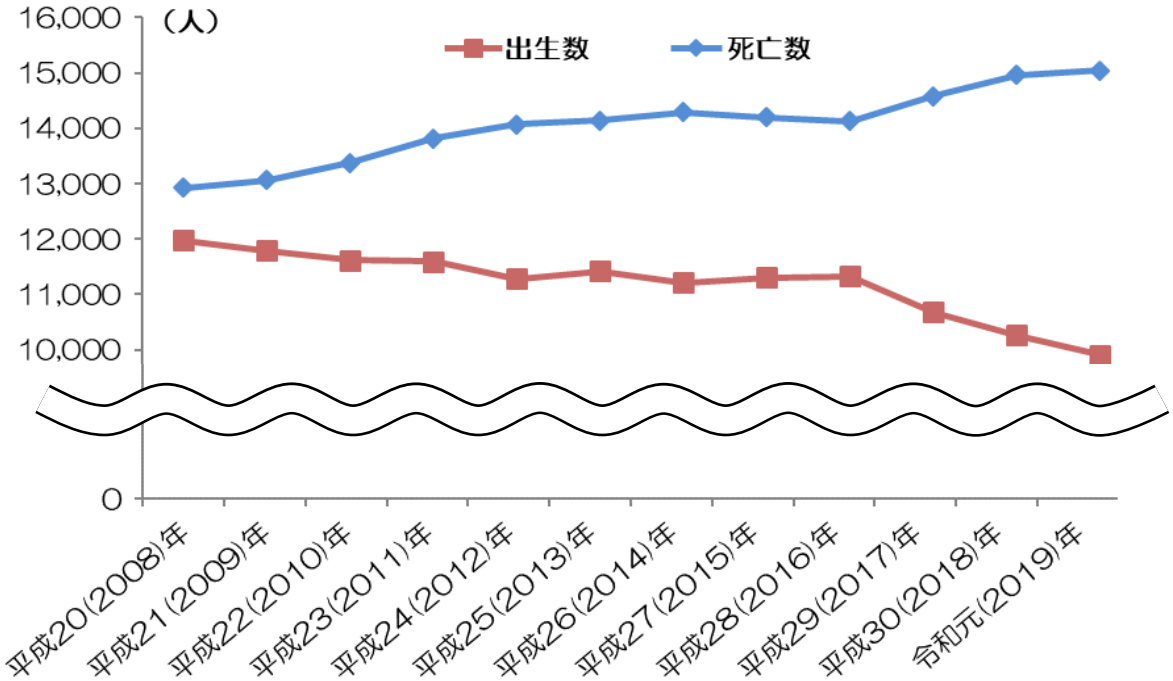


図６　自然動態年次推移



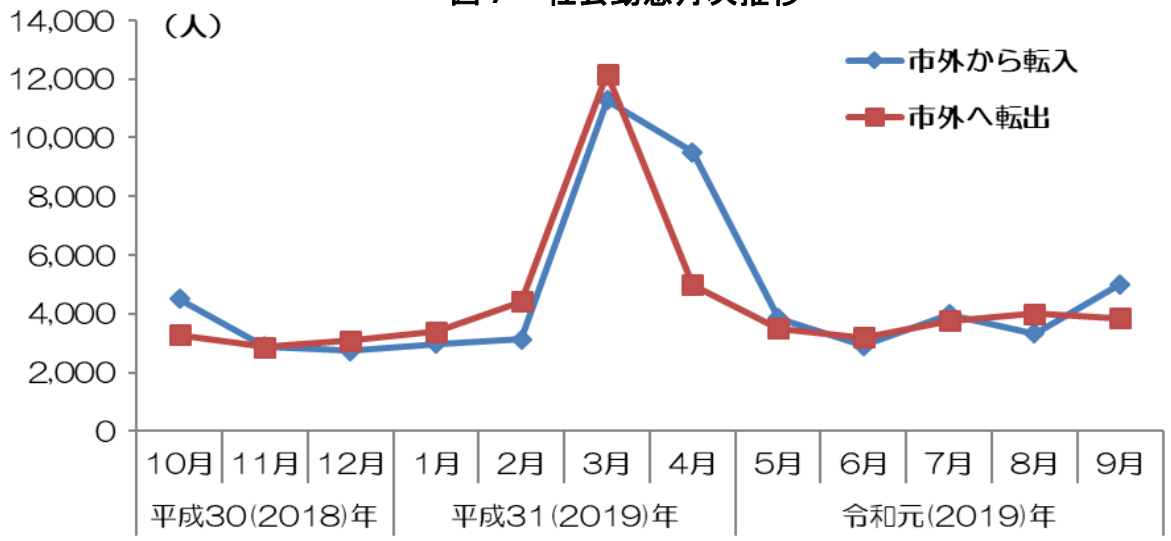
（２）　社会動態

前年より転入転出とも増加

この１年間（平成 30（2018）年 10 月から令和元（2019）年９月まで）の社会動態をみますと，転入は 10 万 8,049 人で，前年と比べて 2,391 人（2.3%）の増加，転出も 10 万 4,459 人で，前年と比べて 1,345 人（1.3%）の増加となりました。

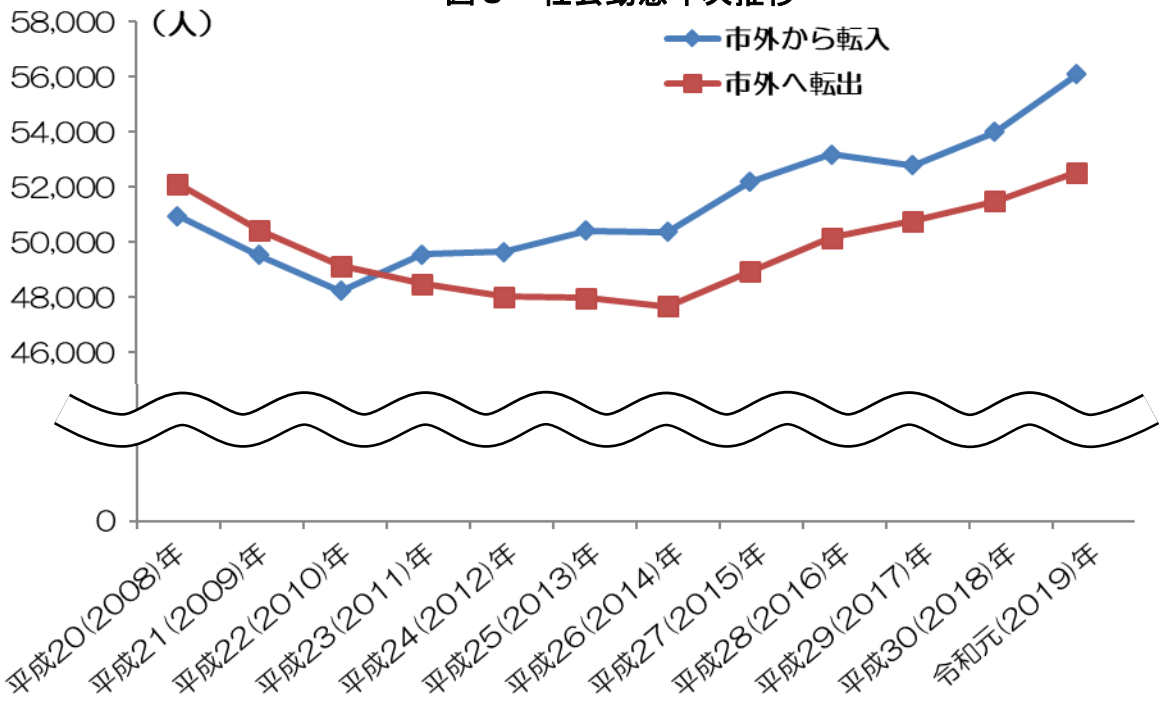
その他の異動（住民基本台帳等の職権による記載，消除又は記載の修正による異動数）は，1,170 人減少と最近５年間で最も多く，前年比の減少数は 276 人でした。

図７　社会動態月次推移



（注）市内異動（区内・市内他区）を除く。

図８　社会動態年次推移



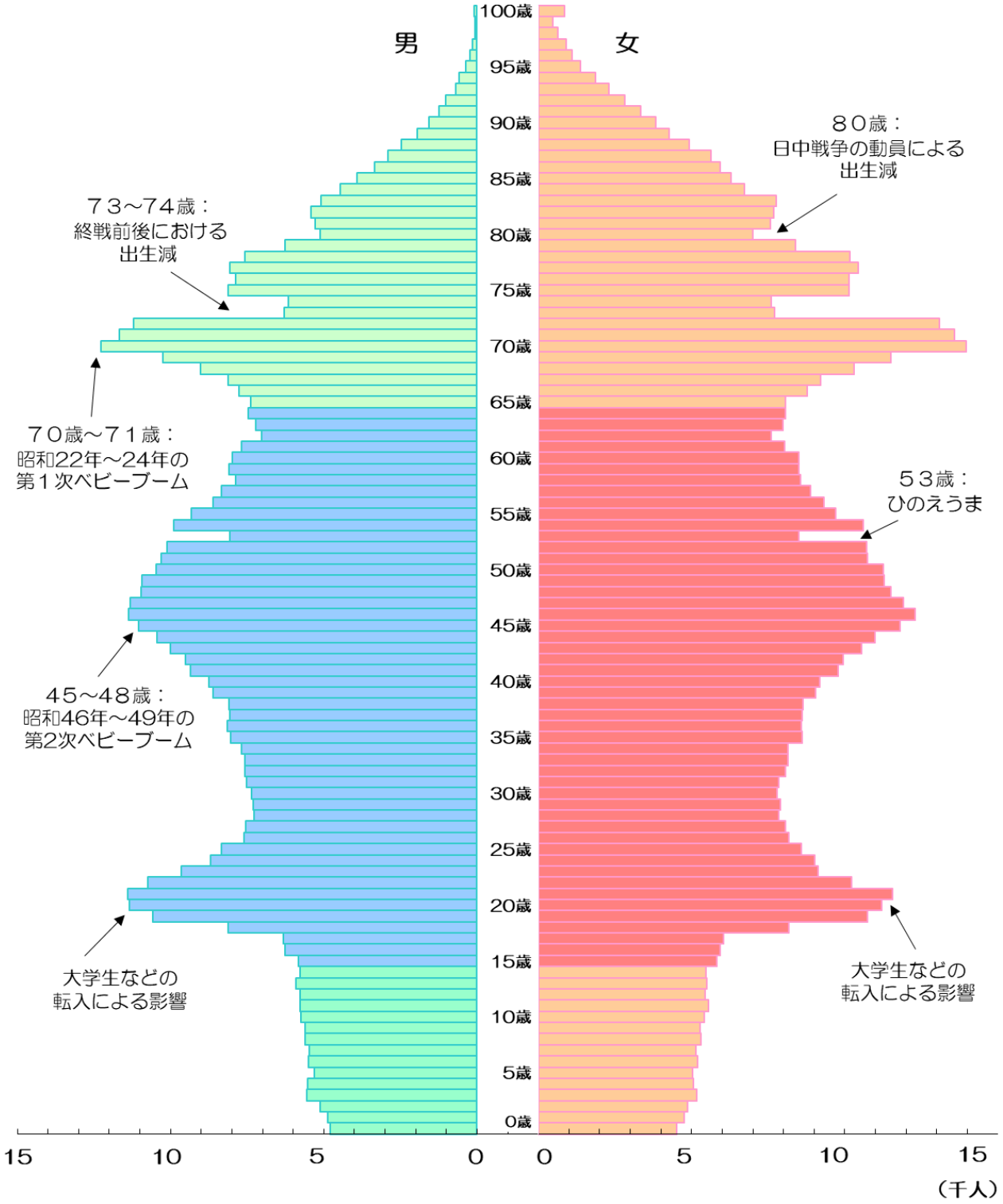
（注）市内異動（区内・市内他区）を除く。

３　年齢（各歳）別推計人口

人口構造を人口ピラミッドでみますと，第１次ベビーブーム（昭和 22（1947）年から 24（1949）年）の影響で 70 歳から 72 歳の年齢層が最も多く，また，大学生などの転入による影響で 19 歳から 22 歳の年齢層が多いことも特徴となっています。

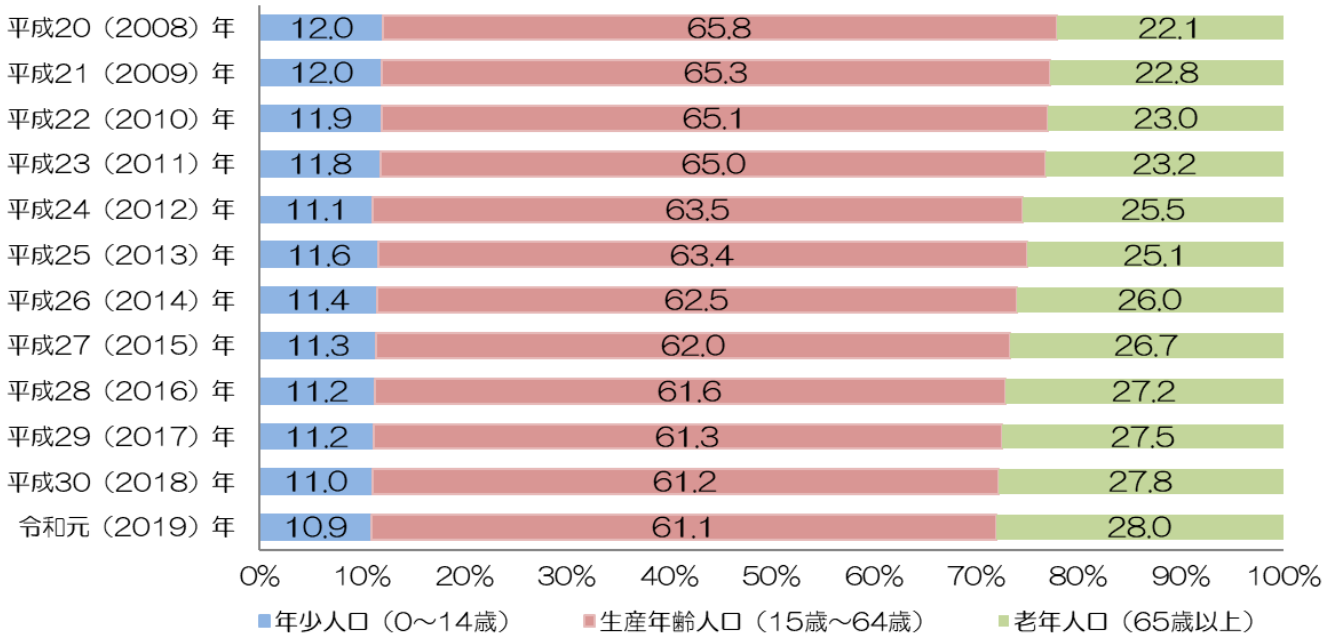
一方，丙午（ひのえうま）の 53 歳や，第２次世界大戦の影響による 73 歳から 74 歳の年齢層が，それぞれ少なくなっています。

図９　人口ピラミッド（令和元（2019）年 10 月 1 日現在）



年齢３区分別人口をみますと，年少人口（0～14 歳）は 16 万 4 人（人口総数に占める割合は 10.9%），生産年齢人口（15 歳～64 歳）は 89 万 5,835 人（同 61.1%），老年人口（65 歳以上）は 41 万 425 人（同 28.0%）となっています。

図１０　年齢３区分別推計人口の推移（各年 10 月１日現在）



年齢３区分別人口を行政区別でみますと，年少人口の構成比では，西京区（18,998 人・区の人口総数に占める割合は 12.8%）が最も高く，東山区（2,806 人・同 7.6%）が最も低くなっています。

生産年齢人口の構成比では，下京区（55,445 人・同 67.1%）が最も高く，山科区（77,908 人・同 58.0%）が最も低くなっています。

老年人口の構成比では，東山区（12,355 人・同 33.4%）が最も高く，下京区（18,943 人・同 22.9%）が最も低くなっています。

表１　年齢３区分別人口及び構成比（令和元（2019）年 10 月１日現在）

（単位 ： 人，%）

	人口	構成比		人口	構成比		人口	構成比		人口	構成比
京都市			**左京区**			**山科区**			**右京区**		
0～14歳	160,004	10.9	0～14歳	17,914	10.7	0～14歳	14,415	10.7	0～14歳	22,959	11.3
15～64歳	895,835	61.1	15～64歳	102,741	61.2	15～64歳	77,908	58.0	15～64歳	122,911	60.3
65歳以上	410,425	28.0	65歳以上	47,167	28.1	65歳以上	41,936	31.2	65歳以上	57,800	28.4
北　区			**中京区**			**下京区**			**西京区**		
0～14歳	12,389	10.5	0～14歳	11,486	10.4	0～14歳	8,292	10.0	0～14歳	18,998	12.8
15～64歳	71,253	60.4	15～64歳	71,464	64.5	15～64歳	55,445	67.1	15～64歳	88,686	59.5
65歳以上	34,291	29.1	65歳以上	27,871	25.1	65歳以上	18,943	22.9	65歳以上	41,286	27.7
上京区			**東山区**			**南　区**			**伏見区**		
0～14歳	7,842	9.3	0～14歳	2,806	7.6	0～14歳	11,675	11.5	0～14歳	31,228	11.3
15～64歳	53,525	63.3	15～64歳	21,796	59.0	15～64歳	63,659	62.9	15～64歳	166,447	60.0
65歳以上	23,172	27.4	65歳以上	12,355	33.4	65歳以上	25,858	25.6	65歳以上	79,746	28.7